



# 禁煙ジャーナル

■発行・たばこ問題情報センター [発行人・渡辺文学]

No. 171

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203  
《郵便振替口座番号》

【印刷所】遠藤印刷 1部400円

## 禁煙促進に医療関係者の奮起を

### ジャーナリスト

5月31日は World No Tobacco Day。去る2月には「たばこ規制枠組み条約」が発効、世界の禁煙運動は飛躍への転機を迎えた。わが国はいち早く同条約を批准したが、肝心の喫煙対策は必要最小限にとどめるといった姿勢で、禁煙運動関係者を苛立たせている。

#### ■「テーマ」ふさわしいのは日本!

WHOが採択した今年のテーマは、Health Professionals against Tobacco, Action and Answers。喫煙の害をよく知っている医者や看護師らに喫煙対策に全力をあげてもらおう、という趣旨らしい。残念ながら、このテーマがもっともふさわしいのは日本だ。

医師会の調査によると、日本の男性医師の喫煙率は21.5%。米英の医師の喫煙率3~5%に比べ格段に高い。1992年に禁煙推進医師歯科医師連盟が発足、医療機関や保健福祉施設での禁煙推進、医療・教育機関での禁煙指導に乗り出したが、わたしの通っている病院や歯科医院で禁煙啓発のポスターなど見たことがない。もっともっとがんばってもらわなければならない。

日本看護協会の調査によると、女性看護師の喫煙率は24.5%で、一般女性の喫煙率の2倍にのぼる。職業を持つ女性は男性との対等意識が強いからだろうが、これは困った問題だ。日本看護協会は職場での看護師の喫煙率ゼロ、2006年までに看護師の喫煙率半減を目標にしている。国民の健康を守る専門職としては、ぜひそう願いたい。

#### ■警察はもっと摘発を

近頃、政府は少子化対策に力を入れ出したが、国の宝ともいえる子どもをたばこの誘惑から守る具体策には熱心でない。喫煙経験者は男子中学1年で2割を超え、高校2年で5割を超える。たばこの購入先は自動販売機がもっとも多く、男子高校3年の場合7割以上を占める。自販機は対面販売ではないため、子どもでも容易にたばこが買えるからだ。わが

国では1900年から未成年者喫煙禁止法があるのに、有名無実である。たばこは子どもが不良化する大きな要因とされるだけに、由々しい問題だ。さらに問題なのはたばこ屋、コンビニなど、対面販売の店から買う子どもが少なくないことだ。男子高校3年の場合、5割近くがコンビニやスーパーで買っている。未成年者喫煙禁止法では、子どもにたばこを売った者は50万円以下の罰金を科される。同法違反で警察に検挙される者は年間10件前後に過ぎない。もっと積極的に摘発すべきだ。自動販売機については、業界では年齢識別機能の導入を考えているが、警察庁は成人のカードを譲り受けて容易に購入できるのでは、と疑問を持っている。子どもの健全な成長には日本の未来がかかっている。財務省、たばこ業界は、むしろ自動販売機の全廃を決断すべきである。

#### ■飲食店の「禁煙条例」制定を

学校医も、子どもの喫煙阻止に全力をあげてほしい。特に、歯科医は歯や歯肉の着色、口臭などを通して子どもの喫煙習慣を簡単に見抜けるはずである。厚労省策定の「健康日本21」では2010年までに未成年者の喫煙をなくすことを目標にしているが、現在の甘い政策では実現不可能としか思えない。

— ※2面下段に続く —



●厚労省、日本医師会などの主催するシンポジウムで座長の 博士と、発言する医学4団体代表。

# 「世界禁煙デー」イベントで タバコ規制は最重要課題—「宣言」「決議」「アピール」採択

5月31日、東京千代田区のサイエンスホールで、厚生労働省と日本医師会など保健医療団体が主催した「世界禁煙デー記念シンポジウム」が開催されました。今年は、WHOのスローガンと歩調を合わせて「たばこ規制における保健医療専門家の役割」と題する内容で、  
大学の教授が「喫煙病の治療と予防」を柱に講演を行いました。次いで、  
祐民博士が座長となって、  
の4氏から、それぞれの団体における禁煙推進活動の報告がありました。この席で  
氏は、日本歯科医師会の「禁煙宣言」を行い、会場から大きな拍手を受けました。パネル討論の後、  
氏から「決議文」が提案され、満場の拍手で採択されました。歯科医師会の「禁煙宣言」と、パネル討論の「決議文」を紹介いたします。

## 日本歯科医師会禁煙宣言

喫煙と無煙たばこの使用、ならびにそれに伴う受動喫煙による健康被害は、がん・心臓病等全身の健康に影響を及ぼすことが明らかになっている。

喫煙は口から行われるため、口腔領域に直接的影響を及ぼし、歯周疾患、口腔がん、根面のう蝕、口唇、口蓋裂、歯の喪失、歯や歯肉の着色、口臭などその被害は多様である。

さらに、喫煙は、歯周治療、インプラント、抜歯等の術後治療に影響し、治療歯の喪失や、充填物の着色など、主用な歯科治療の効果にも重大な影響を及ぼす。

たばこの消費等が健康に及ぼす悪影響から現在及び将来の世代を保護するため、たばこの使用の中止及びたばこへの適切な治療をすすめることは、保健医療専門職としての基本的役割である。

また、口腔領域は、喫煙の悪影響と禁煙の効果を直接確認することが容易であることから、歯科保健医療専門職による喫煙対策の推進は効果的であり、国民の健康に大きく貢献できるものである。

このような背景をもとに、日本歯科医師会は、国民の口腔および全身の健康とより良い歯科治療を確保するため、喫煙対策が重要な課題であることを認識し、以下に掲げる行動規範を推奨することにより、積極的に喫煙対策を推進することを宣言する。

- ・喫煙対策を推進する保健医療専門職の模範としての役割を担う。
- ・喫煙対策に関する調査と評価を行い対応する。
- ・施設ならびに行事を禁煙化し、健康に関連する行事に喫煙対策を含める。
- ・喫煙の状況を尋ね、禁煙の助言と支援を行う。
- ・教育研修プログラムに喫煙対策を含める。
- ・世界禁煙デーの活動に積極的に参加する。
- ・喫煙対策活動のネットワークに参加する。

— ※ 1面からの続き —

大人の非喫煙者もたばこの煙からまだ十分守られているとは到底いえない。2003年5月施行された「健康増進法」では、多数の者が利用する施設を管理する者は受動喫煙を防ぐ措置を講じるよう努めなければならない、としている。だが、罰則規定がないため、食堂などはほとんど実施していない。最近では、市町村や区が路上禁煙条例を相次いで制定しているが、欧米のように飲食店の禁煙条例こそ急ぐべきだ。飲食店の受動喫煙は利用客だけでなく、従業員の健康を守るためにも重要だ。

### ■裁判官の質問われる「判決」

その意味ではタクシーの運転手も大きな被害者だ。わが国には、26万台のタクシーが走っているが、禁煙車はわずか3,800台。全体の1.5%に過ぎない。厚生省は一昨年、「健康増進法」の受動喫煙防止対策の対象施設にタクシーも含むとの通達を出したのだが、法人タクシーのほとんどがソッポを向いた

ままだ。業を煮やしたタクシー運転手や利用者らが昨年国やタクシー会社を相手に損害賠償の訴訟を起こした。国交省、観光業界は2010年に訪日外国人観光客数を1千万人にするキャンペーンを展開している。禁煙志向の強い欧米の観光客を誘致するためにタクシーの全面禁煙化を早急に推進すべきだ。

いま注目されているのは、6月下旬に東京高裁で予定されているたばこ病訴訟控訴審の判決だ。肺がん患者らが有効な喫煙対策を採らなかったという理由で、国、日本たばこ産業に損害賠償を求めたのに対し、第一審の東京地裁はニコチンの依存性はアルコールに比べ低い、などの理由で、請求を棄却した。

「たばこ規制枠組み条約」の発効で、たばこの有害性が国際的に認知された今日、このような判決が繰り返されれば、日本の裁判官の質が問われかねない。時代と共に被害者救済に傾いてきた公害裁判の流れの中で、被害者を納得させ得る判決を期待する。

【 = ジャパンタイムズ 2005. 5. 16「オピニオン」より】

# 2005年世界禁煙デー記念シンポジウム パネル討論における決議文

私たちは本日「保健医療専門家とたばこ規制」と題するパネル討論を行い、その中で「健康日本21」に掲げるたばこ対策の目標の達成に向けた取り組みを一層推進するとともに、たばこ対策をさらに強化することが必要であるということを確認いたしました。よって、政府に対し、以下の点について強く要求する。

1. 「健康日本21」において喫煙率の低下に関する数値目標を設定すること。
2. 未成年者喫煙防止対策として、たばこの自動販売機に関して将来的には撤去することを目指し、その規制を段階的に強化していくこと。
3. 公共の場及び職場における受動喫煙防止対策を徹底すること。
4. たばこ価格を引き上げ、それにより増加した税収を健康づくり施策に活用すること。

また、本日のシンポジウムを契機として、保健医療関係団体としても、それぞれのたばこ対策の取り組みを一段と強めるとともに、十分に連携し、なお一層の努力を重ねることを宣言する。

平成17年5月31日

## 「世界禁煙デーシンポジウム」アピール

5月28日、千代田区飯田橋の東京しごとセンターで、タバコ問題首都圏協議会主催のシンポジウムが開かれた。冒頭、参議院議員の来賓挨拶があり、シンポジウムでは、衆議院議員がFCTCの精神を重視して、国は積極的にタバコ規制を推進すべきと力説。アピールを採択して閉会した。

2003年5月、WHOの総会で「たばこ規制枠組条約」が採択され、2005年2月27日に発効しました。

本条約には、その目的達成のためにとるべき措置が定められており、締約国である日本国政府にはその責任を誠実に履行する義務があります。

本条約の完全な実施には、市民社会からの継続的な支援が不可欠です。本条約は序文の中で、タバコ業界と連携していない非政府組織や市民のタバコ規制活動への貢献と関与を強調しています。

私たちはFCTCの発効を踏まえ、世界禁煙デー記念シンポジウムにおいて、以下を宣言します。

日本政府は、FCTCに定められたすべての責務を速やかに履行すること。私たちはその履行に全面的に協力する用意があります。

- ・たばこ事業法を廃止し、規制法を制定すること。
- ・受動喫煙の防止を定めた健康増進法第25条を強制法規とする改正を行なうこと。また、屋外を含む全ての公共の空間（路上、公園、タクシーなど）を同条の対象とすること。
- ・タバコ税を大幅に増税すること。
- ・タバコ産業の、すべての広告とスポンサーシップを禁止すること。
- ・タバコの自動販売機を全廃すること。
- ・保健・医療従事者のすべての養成課程において、「タバコ規制および禁煙支援カウンセリング」を研修する必須のカリキュラムを設けること。
- ・締約国会議の会合をわが国に招致すること。

2005年5月28日

世界禁煙デー記念シンポジウム参加者一同

## 国民医療推進協議会・禁煙活動推進方針

4月15日開催された国民医療推進協議会総会において、上記の方針が決定されました。この決定に従って全国各地で国民医療推進協議会が開催され、「国民の健康を守るための禁煙活動の推進」が全国的に展開されました。

世界禁煙デーに因んで、下記の方針実現のためにご尽力を要望します。（要旨）

1. 「WHO枠組条約」には、たばこ価格の引き上げ、受動喫煙の防止、警告表示の強化などの規定がある。これらの対策を誠実に実行することが、締約国の一員としてのわが国に求められている。
2. わが国の喫煙率は依然として高い水準にある。喫煙が健康に及ぼす悪影響について、たばこの警告を文字表示するだけでなく、図や写真などで具体的にわかりやすく明示して知識の普及を図ることはもちろんのこと、受動喫煙の防止、あるいは未成年者の喫煙防止のために禁煙教育の推進、自動販売機に対する規制の強化などが重要である。
3. たばこ価格の引き上げは、たばこの消費、とくに未成年者の消費を減少させるための最も有効かつ費用対効果の高い方策である。
4. たばこの価格を2倍にした場合には、喫煙者が2～3割減少することが分かっている。従って、たばこによる健康被害を被る人が減少するだけでなく、たばこの売り上げ総額は増加するので、国、地方行政の税収も増えることになり、一石何鳥もの効果が得られることになる。

国民の健康を守る立場から、たばこ価格の大幅引き上げを実現するよう強く要望する。併せて当該税収を国民の健康のための施策の財源に充てるよう要望する。

※上記要望書は、5月31日、

名で、小泉首相、谷垣財務相、尾辻厚労相、中山又科相、石政府税調会長などに提出されました。

## プロ野球全球団にアンケート実施

■ [経緯] プロ野球・日本ハム球団は、2月20日、宮城・東北高校からドラフト1位で入団した新人のダルビッシュ投手(18)が、未成年者にもかかわらずキャンプ中に喫煙していた事実を確認し、球団寮での謹慎処分と社会貢献活動への参加を科したと発表。メディアでセンセーショナルに報じられた。

未成年者の喫煙増加傾向は、社会問題としてクローズアップされている矢先であった。島田チーム総括本部長は、「我々の教育が不十分だった。大変申し訳ない」と謝罪した。

この度の調査は、  
保健所長から「各球団の喫煙対策はどうなっているのか。調査をしては？」との提案があり、それを受けて、2月26日の禁煙医師連盟の幹事会に提案、  
名で実施となったものである。

■ [調査] 3月2日付けで12球団社長宛にアンケート調査書類(資料)を送った。

プロ野球選手の喫煙率が40%と言われているが、どういふことかに始まり、一酸化炭素と運動能力、以下、血圧上昇、運動障害、ニコチン依存症に関する資料等も入れた。

5球団から回答が来たが、最も早く回答が来たのは中日ドラゴンズで、着いたその日に投函されている。最後は18日付けの巨人だった。

3月2日、未回答球団総務部に「他球団からは誠意ある回答が寄せられている」旨を入れて、再度調査書等を郵送したが、以後まったく音沙汰なしである。未熟な団体としかいいようがない。

この事態の張本人とも言うべき日本ハムから回答がきていないが、憤満の極みである。

日本プロ野球コミッショナー、セ・パ野球連盟会長には、2日付けで「喫煙問題調査」を行っているとの書簡を送ったが返事はない。

トップがこうだから、今言っているプロ野球の改革については何をかいわんやである。

未回答の球団は以下の通りである。  
日本ハムファイターズ、楽天イーグルス、福岡ソフトバンク・ホークス、西武ライオンズ、阪神タイガース、ヤクルトスワローズ、横浜ベイスターズ

[調査結果] 回答のあった球団は、各球団とも概ね何らかの喫煙対策が講じられているが、温度差はいくらかあり、喫煙に関しては選手に限らず好ましくないとするところが多い一方、未成年者でなければ容認というところもある。建物や施設内禁煙での受動喫煙対策も理解されていないようである。

今後の喫煙対策には目を向け始めている。しっかり取り組んで頂きたい。残念なのは、2002年の世界禁煙デー標語を全球団が知らなかったことである。この年はスポーツ界に強く働きかけるチャンスであったと自らも反省するところである。

## たばこ会社、女性を標的に

米国、  
大学公衆衛生学部の

が、ネットに公開された1969年から2000年にかけての米国のたばこ会社の内部文書を分析した結果を今週のAddiction誌に発表した。それによると、たばこ会社は、たばこをもっと女性に売り込むため、さまざまな研究を行ってきた。

例えば、煙をどのくらい深く吸い込むか、1日の喫煙本数、肺へのタールの残留値が男と女でどう違うかについての研究、男性と女性の心理的な差異——女性より気分を引き立てたり、ストレス解消のためにタバコを吸う——についての研究などである。

女性に受けるタバコを開発するため、タバコにレモン、バニラ、マシュマロ、ココナツ、チョコレートの風味を付ける研究や、女性が体重を減らすことに興味があることに着目して、食欲を減退させる薬をタバコに入れる可能性の研究、女性の健康志向に着目して、低タール、低ニコチンタバコの開発に関する研究もおこなわれた。

「これは毎年178,000人の米国女性を殺している製品に依存させるよう、女性の弱点を活用するためタバコを科学的に変えようという、行き過ぎたものだ」と  
は述べた。

男性の喫煙率は世界中で下がっているが、女性のそれは上がり続けており、2025年には20%に達すると予測され、女性はタバコ会社にとって巨大な潜在的市場となっている。

※【Japan Times 2005.6.2. /要訳= 】

## 首都圏協、西城氏らを「卒煙表彰」

タバコ問題首都圏協議会は、禁煙に成功してタバコの害をアピールしている俳優、歌手、タレントなどを対象に「卒煙表彰」を行なってきました。

これまでに表彰状を贈った方は、ザ・プリリアントグリーン、松崎菊也、aikooの各氏で、昨年は西田敏行、島田紳助、徳光和夫、スガシカオ、小倉智昭の5氏を表彰、出演している番組や、事務所宛に表彰状と副賞等を届けています。

今回、西城秀樹、松本人志、福山雅治、セインカミュの4氏には、「禁煙ステッカー」『空気のおいしいレストラン&カフェガイド』『「たばこ病」読本』『禁煙ジャーナル』などをお送りし、今後ともタバコに囚われないことの素晴らしさについて発言し続けて下さるようお願いしました。

なお、「升席禁煙」を実施し、初の団体表彰を行った日本相撲協会からは5月20日付で「折角ですが私どもは頂く立場にありませんので、お返し致します。」(原文のまま)という文書とともに、禁煙ステッカーや本が、そっくり返送されてきました。

なぜ「受取拒否」なのか、理由は不明ですが、もっと“太っ腹”だと思っていたのに、残念です。

# K塾の思い出

今年2月の「禁煙学会」の折、渡辺文学さんが気さくに声をかけてくださり、リセット禁煙のきっかけとなった、「学習塾」での、喫煙防止教育と禁煙教育について、「問題提起」をよろしくと、お誘いを受けました。そこで、これ幸いと、つたない文章を書かせていただきます。

## ■塾生寮というところ

禁煙で合格率が上がるはずなので、禁煙教育に取り組んでみないか、とK塾の担当者に提案すると、それなら、塾生寮でやってみよう、ということになりました。名古屋には七つ、浪人生の寮があり、各々定員約100名、住込みの60代の夫婦（寮長）が、親代わりの管理人。どの人も元一流企業のサラリーマンで、第二の人生として、若者の教育を選び、10倍以上の競争率を勝ち抜いた人たちとのことでした。初めて、ある寮の食堂に通されたとき、若者特有の緊張感と繊細さに満ちた注目を浴び、息が詰まるような思いだったことを思い出します。

## ■大人のずるさ

寮では禁煙が建前で喫煙したら退寮が規則です。ところが、かなりの割合(最大7割という予想も)が吸っており、しかも、ばれても、「じゃあ退寮させるよ。そうすれば、損するのは、塾のほうだよ」と、大人のずるさを見透かして、開き直す子供も多いのです。一方、「窓を開けると下から臭ってきた。禁煙なのだから、なんとかしてほしい」というまじめな子供の要望もある。喫煙問題はすでに大きな問題となっていました。

## ■一家言ある寮長たち

まず、寮長さん夫妻7組に集まってもらい、セミナーをしました。吸っている寮長さんもいましたし、正直、自分の息子のような年の、私の話を素直に聞いてくれるかどうか・・・という感じでした。結局、そのうち一人が禁煙し、二人がかなり積極的に取り組んでくださいました。「喫煙したのだから本来なら退寮だ」と親ともども呼びつけ、強い姿勢を示しつつ、タバコの害や、吸うことのむなしさを説明していくスタイルが多かったようです。

## ■吸ってもやる気の出ない日はある

私が話すことができた受験生のうち、印象に残っているのは、自分の勉強時間を細かく記録していた女の子です。喫煙時は、実質9時間ぐらいだったのが、同じ起床・就寝時間なのに自然に11時間ぐらいいまで増えた、と言っていました。吸っていたとき

は、勉強を始める前に先ず一服。はじめると30分で吸いたくなり、辛抱しつつ1時間でタバコ休憩。というパターンだったのが、禁煙後は勉強を始めると、気づくと1時間以上経っていたなんてこともよくあるようになりました。見事に、某国立大医学部に合格しましたが、彼女の「タバコを吸っても、やる気の出ない日もある」という言葉が印象に残っています。これは、喫煙者の普通の思い込み＝「タバコを吸わないから、やる気が出ない」をリセットした結果、出てきた言葉で、確かにその通りですよ。

## ■派遣社員

その後、「禁煙で合格」のデータがそろい、マスコミにも流れるようになったころ、K塾の対応は、変わりました。現場での裁量に経営幹部からの横槍が入ったのです。寮に未成年喫煙者を抱えているような印象を与えてはまずい。という判断です。そして、独自に採用されていた寮長たちは、派遣社員に取って代わられるようになりました。さびしい結果になりました。

## ■学習塾の果たす役割

もっとも、新興勢力の新しい塾の中には、全校、愛知県の受動喫煙対策認定を受けているようなところも出現。親身の指導を本気ですれば、点数だけでなく、栄養・喫煙・運動を含めた生活全般にかかわらざるを得ない。必然的に防煙教育・禁煙支援がクローズアップされるのです。タバコに関しては、現状では、そこに熱心な親、熱心な教師がいなければ、正しい情報が全く伝えられていない状況なので、熱心な「学習塾」が現れれば、成績を含めて大きな成果を生むでしょう。本音とスピードで成長してきた学習塾。彼らの果たす役割も大きいのです。

## ■「第二次たばこ病訴訟」第2回口頭弁論

～《たばこ病をなくす横浜裁判》～

【日時】 6月29日(水) 13:10～  
 【場所】 横浜地裁 \*12時半集合  
 ※口頭弁論終了後、開港記念会館9号室で『ニコチン依存症について』(仮題)の講演会を行います。皆様のご参加を!

## 「禁煙タクシ-訴訟」第6回口頭弁論

【日時】 7月15日(金) 16:30  
 【場所】 東京地裁 7F 709号法廷  
 ※厚労省の受動喫煙防止に対する権限について国側から反論が提出される予定。  
 ( 団長は喉の手術をされましたが無事退院、17日の法廷に出席しました)

## 「大丸」全店・全面禁煙に寄せて

2005年春から、百貨店の大丸が6店舗で全館禁煙を実施しました。これは全国チェーンの百貨店では日本初の快挙とのことです。

特に嬉しいのが、店舗内のすべてのレストランも全席終日禁煙になったため、タバコの煙に怯えることなく、安全な空気の中で食事ができることです。

実際に東京店8階のレストラン街に行ったところすべてのレストランの店頭に大きく「終日禁煙」の告知文が掲載されていました。

実は、8階フロアの中央付近に喫煙室が存在していますが、完全に隔離され、また、入り口のドアも手動で開閉するため、煙は部屋の外へほとんど漏れてきません。後日、大丸の担当者に電話で確認したところ、8階喫煙室のダクトは、他のダクトとは別になっており、喫煙室の煙が循環することはないとのことでした。

しかし、その担当者は、終日禁煙化後、レストランのお客さんが減少し、特に夜の宴会に影響が出ているとのこと。喫煙者がいれば、喫煙可能な宴会場を探さざるを得ない現実があるのかも知れませんが、売り上げ減のために不完全分煙に逆戻りするようことは、避けていただきたいものです。

そのためにも、非喫煙者が積極的に終日完全禁煙のレストランを選択していただき、かつ、店員さんに「禁煙で嬉しいですよ」と一言伝えていただくことで、禁煙レストランの需要があることを、お店側に伝えていただきたいと思えます。

皆様のご協力よろしく願いいたします。

## 「恩賜のたばこ」スリヒロイド

長い歴史をもって、宮内庁の「下賜品」として続けられていた「恩賜のたばこ」が、ついに廃止されることとなった。

この問題では、1980年代～90年代に、当センターが呼びかけて、**弁護士や** **さん**（日本キリスト教婦人矯風会）とともに議員（当時衆議院）などと廃止を求めて、何回か宮内庁を訪ねた経緯がある。

また、**弁護士**は、歴代宮内庁長官に何度も手紙を送り、この制度の廃止を求めてきた。

「恩賜のたばこ」には「接待用」と「賜り用」の2種類があり、賜り用は、皇居で清掃奉仕をする「勤勞奉仕団」や、両陛下の地方訪問の際の自治体職員ら関係者、警備に関わる警察官などに配られてきた。接待用は、天皇陛下の主催する晩餐会や園遊会などの場で提供されてきた。今後は、日持ちのする菓子などで代用するという。

宮内庁幹部は、「男性の喫煙率が50%を切り、女性の喫煙率が10%台前半となっているなどを理由に「たばこはだれもが喜ぶものではなく、嫌がる人もいる。両陛下からの贈り物として適切かどうか判断した結果」と語っている。

## ●2005年「タバコやめてネコンテスト」 2年連続第1位に和田アキ子さん

タバコ問題首都圏協議会（22団体加盟）は、「世界禁煙デー」に呼応して、2003年から「タバコやめてネコンテスト」を実施しており、この年はタレントの木村拓哉さんが1位となりました。

去年は、歌手の和田アキさんが1位となりましたが、今年も投票の結果、去年に続き和田さんが2年連続ナンバー1となりました。

氏名	一口コメント
1 和田アキ子	最近声が出なくなってきた。
2 ビートたけし	タバコは孫に嫌われますよ。
3 明石家さんま	テレビで堂々と吸い過ぎる。
4 浜崎あゆみ	愛犬の受動喫煙が心配。
5 磯野 波平	アニメでの喫煙は悪影響。
6 丸山 茂樹	グリーンでは禁煙を。
7 宮崎 駿	人と自然の共存？タバコは？
8 木村拓哉	貴公子とタバコは相反する。
9 所ジョージ	明るい顔をしてスモーカー。
10 桃井かおり	タバコは肌の大敵ですよ。

●11位以下（敬称略）＝木村拓哉／小泉今日子／立川志の輔／野比のび助／清原和博／星野仙一／古館伊知郎／さくらひろし／倉本聡／広末涼子／以下略

## 「ワーストスモーカー」は青島氏

『禁煙ジャーナル』では、これまでの発言等を点検し、今年の「ワースト10」を選定し、公表しました。

氏名	●一口コメント
1 養老 孟司	メディアで禁煙運動を誹謗。
2 小谷野 敦	魔女狩りなどと新聞で誹謗。
3 岩見 隆夫	JTの新聞で禁煙運動中傷。
4 猪瀬 直樹	禁煙運動に無理解発言続く。
5 宮崎 駿	環境問題を言いながら喫煙。
6 丸山 茂樹	プレー中の喫煙は問題。
7 筑紫 哲也	タバコに無理解発言続く。
8 黒鉄ヒロシ	メディアで禁煙運動を中傷。
9 志村 けん	番組で頻りに喫煙シーン。
10 嵐山光三郎	タバコをやめるなど弱動。

※《11位以下》明石家さんま／木村拓哉／小泉今日子／伊集院光／大林宣彦／尾崎将司／北方謙三／三枝成彰／竹村健一／所ジョージ（敬称略）

新聞ウオッチング 05年4月

☆推薦記事/★反禁煙記事/▼疑問の記事

【朝日新聞】

- ・4/2 [難問解決 モジロ-] 禁煙ビーチ増えるかな 熱海は今夏から分煙 「鳴き砂」保護が始まり☆
- ・4/13 [掲示板] 受動喫煙でイライラ (4名)
- ・4/17 [声] 妊婦バジで座席を譲って 柏市 (会社員・31) ☆
- ・4/17 [生活] 増えるネット通販被害 韓国消費者連盟 鄭光謨会長に聞く (大村美香記者) ☆
- ・4/18 [声] 未成年の禁煙 自販機廃止で 刈谷市 (団体役員・69) ☆
- ・4/21 (夕) 30~40代の男性 上半身肥満3割 喫煙率も5割超す 厚労省調査
- ・4/22 [メディア] 女児両親「報道に不信」奈良の誘拐殺害事件 (煙草ポイ捨てなど取材に問題)
- ・4/26 [声] 歩きたばこはとっても危険 目黒区 (中学生・13) ☆

【毎日新聞】

- ・4/8 [雑記帳] (熱海市の砂浜を全面禁煙) ☆
- ・4/9 [キャンパル] 「父のたばこ」 (大・) ▼
- ・4/13 [経済観測] 価格機能の活用 (幸兵衛) (無職・71) ☆
- ・4/21 [広場] 自販機たばこ販売を禁止せよ 宮城県白石市 (会社員・51) ☆
- ・4/21 [夕・刺定席] 音楽ホールと喫煙距離 ☆

【読売新聞】

- ・4/7 (社) たばこカード2008年導入 全国62万台 自販機 持っていないと買えません
- ・4/10 [くらし・健康] COPDのリハビリ 呼吸法と運動習慣を (記者) ☆

【産経新聞】

- ・4/3 (社) 分煙ノウハウ JT無料提供 煙たがられるご時世 苦肉のコンサル業務 ▼
- ・4/11 [談話室] 自分で肩身狭くした喫煙者 日立市 (主婦・25) ☆
- ・4/22 [チャム] (厚労省の喫煙実態調査)
- ・4/25 (都) 愛煙家と“共存”推進 7月から都内自治体 活動歌の作詞募集 ▼

【日本経済新聞】

- ・4/21 (夕) たばこやめたいが…半数、禁煙に失敗 2003年国民健康・栄養調査

【東京新聞】

- ・4/5 (家) 「ほん」『ごくうま』湘南の禁煙レストラン ☆
- ・4/15 [図解からだガイド] たばことCOPD 肺の様子と病状の進行 (記者) ☆
- ・4/18 [発言] 演奏会の休憩 不快なたばこ 中央区 (中学生・13) ☆

【赤煙筆】 4/2 『朝日』 [難問解決] は読者の質問にお猿の「モンジロー」が答える形。熱海市が、ホテル・旅館が並ぶ中心部の400メートルにわたるサンビーチを、また、京都府京丹後市が琴引浜を条例で禁煙にした背景や運用上の課題等を取材。モンジローは「雪解けの季節、スキー場の地肌にはたくさんの吸い殻が現れる。キーツ。雪や砂浜に埋めればわからないから、という人間の勝手さにはうんざり」と、感想を述べたが、喫煙者が吸い殻を隠すのは“サル知恵”の一面? ▲4/3 『産経』 「分煙ノウハウ JT無料提供 煙たがられるご時世 苦肉のコンサル業務」はヨイショ記事。末尾は「喫煙者に心置きなく吸ってもらって、せめて吸う本数を減らすのを留めたり、禁煙する人を減らしたりできれば」というJT幹部の発言を紹介。財務大臣もこの発言を支持するのか、国会議員は質問してほしい ▲4/7 『読売』 「たばこカード2008年導入 全国62万台自販機 持っていないと買えません」はたばこ協会が発表した内容そのままの記事。カード流用で効果は期待できないから撤去を考えるべき、との意見を昨年財政制度等審議会たばこ事業部会で警察庁が述べたことや、数百億円の開発費が無駄になる可能性もあることを読者に知らせるべきだった ▲4/9 『毎日』 「父のたばこ」は、後味が悪い。父には「たばこはやめてくれ」と言うが「父から見れば、たまにだが喫煙するようになった自分が言うのも理不尽ではあるがそこは『知らぬが仏』だ」と結ぶ。読者も読んだ以上「理不尽」と思う ▲4/10 『読売』 [くらし・健康] 「COPDのリハビリ」 (記者) は、患者に向けた、「正しい呼吸法と運動習慣」を身につけるための図入り解説記事。リード文では「たばこが主な原因で肺が傷み、慢性的な呼吸困難になるCOPD…まず禁煙し」とやり、小見出しには「喫煙原因で慢性的な呼吸困難」とあったから、これだけでも啓発効果十分だ ▲4/13 『朝日』 [困ったときの掲示板] の質問内容は「受動喫煙でイライラ」。最初の「がん」(肺がんになったらあなたを訴える!)と最後の「撃退」は、抵抗と戦いを促すものとして妥当。だが、労組に相談しろなどは疑問符をつけたい ▲4/21 『毎日』 [刺定席] 「音楽ホールと喫煙距離」は、ホールの禁煙マインドを考査した結果、サントリーホールと銀座・王子ホールを推奨する。「煙のにおいが少しでもただよってくるようなホールは…音響面も芳しくない」という。そういえば、JTビルにも音楽ホールがあるらしいが、音響効果は? ▲4/25 『産経』 「愛煙家と“共存”推進」「7月から都内自治体喫煙マナーアップキャンペーン」「活動家の作詞募集」もヨイショ記事。都内全区市町村が取り組むというが、実は「最大の目的は禁煙の推進ではなく、喫煙者而非喫煙者が共存できる環境を作り出す…」とあるように、仕掛け人はたばこ業界。禁煙運動を誹謗中傷してきた作曲家・氏も登場する ▲今月のトップ賞は、該当なしとさせていただきます。(氷)

■ 「たばこ病訴訟控訴審」判決迫る!

【日時】 6月22日(水) 14:00 / 【場所】 東京高裁 8F 812号法廷  
 ※ 裁判長が、一審判決「ニコチンの依存症はアルコールより格段に低い」(裁判長の“迷判決”)についてどのような判断を行うか注目されます。  
 記者会見の後、東京弁護士会館で「報告集会」を行います。皆さまの傍聴を!

眼光

NHKテレビ「生活ほっと新情報——がんを予防できる食べ物」(26日)の朝番組で、健康スペシャルの講演会が放映されていた。逆にがんを促進する生活習慣にもくわしく触れていた「がんを促進する生活習慣」として、①片寄った食べ物(−1点)②野菜や果物をほとんど食べない(−2点)③塩辛いものが好き(−2点)④熱いものが好き(−1点)⑤アルコールを1日2合以上飲む(喫煙者−3、非喫煙者−1)⑥運動不足気味(−1点)⑦痩せ過ぎ、太り気味(−2点)⑧タバコを吸う(−3点)で、ゲスト出演者と会場の人から聞いていた。その結果、3点以下は青信号。4~7点は黄信号。8点以上は赤信号という。「赤信号の人は今日からマイナス要因を克服して下さい」と講師の先生◆逆に「がんを防ぐための生活習慣や食べ物」は①野菜・果物を1日400g摂る②塩分は1日9~10g(最小限)③定期的運動④太り過ぎや痩せ過ぎを防ぐ⑤熱いものを採らない⑥アルコールは、酒1合、ビール1本まで⑦タバコは吸わない、他人のタバコも避ける。「このうちタバコをやめれば3割はがんを減少できる」というアメリカの研究も紹介していた。酒とタバコの“複合汚染”について強調していたことが印象に残っている◆先日、神戸から出てき

た友人に誘われて、居酒屋に行った。酒のまったく飲めない筆者は、こういうところに入るとは滅多にない。アルコール問題全国市民協会で、パッチ・テストをして、「この人は飲めない体質です。みなさん酒を勧めないで下さい」という証明書も持っている。この居酒屋、ケムもうもうで、長くは居られない。驚いたのは、このケムの中に子ども連れの若い母親がいたことだ。自分の欲望のために子どもを犠牲にすることは許せない◆先日、埼玉県の短大で禁煙講座をしてきたが、その際に「ヤニケン」(ケムによる体内汚染の度合いがわかる検査紙。副流煙の影響もわかる)を持参して、話のあと短大生たちの希望者に渡した。彼女らは自分の身体を心配して大勢がもらいにきた。講座のあとのアンケートに「漠然としか知らなかったタバコの害が、今日の講座ではっきり分かった」と。特に女性にとってのタバコの害と副流煙の害について映像で知らせたのでインパクトが強かったようだ◆タバコの害はかなり叫ばれ知っているようだが、我が身にとっての意味をなかなか考えない。前述の健康スペシャルでも、真剣に聞いているお年寄りの姿が映し出されていた。恐らく長くタバコを吸っていた人だろう。この人の顔が印象に残っている。(薫)

第21回全国禁煙教育夏期研修会ご案内

薬物乱用防止教育の一層の充実が叫ばれる中、その“入り口”と言われる未成年の喫煙が毎年増えており、2003年には全国で50万人を超える未成年者が補導されている。子供たちの健康を守り、社会環境の整備を目指すことが一層必要となっている。

- 【期 日】 2005年8月6日(土)~7日(日)
- 【会 場】 埼玉県県民健康センター大会議室  
さいたま市仲町 3-5-1 048-824-4801
- 【参加費】 5000円/(懇親会費 5000円)  
学生は全て無料

【8月6日】

・基調講演

・シンポジウム  
座長・

【8月7日】

・シンポジウム  
座長・

【申し込み先】

禁煙・嫌煙川柳

喫煙率 常任理への 壁となり  
朝ラッシュ 隣のお方 ヤニ臭い  
判決不当 ここにもニコ中 裁判長  
禪師喝 命がけなら やめられる  
福朗

【雑記帳】 「世界禁煙デーシンポジウム」の準備などで発行が遅れ+したこと、深くお詫びいたします。  
▼5月10日、 瀬の 社長と 事部長が来会。同社は1990年、タバコを吸わないことを前提に「健康維持手当」を創設。毎月一定額を社内預金としてプール、健康推進のためにそれを引き出して使うことを制度化しました。ところが、ある社員が唾液検査の結果、吸っていたことが判明。4年ほど前に使った20万円を今年の給与から差し引いたところ、労働基準監督署から「労基法違反」の勧告があり相談にみえたのです。さっそく厚労省記者クラブに連絡、11日午後、記者会見を行いました。民間企業が、FCTCを先取りして禁煙活動を展開しているのに、労基署がその足を引っ張るのは何事か、と追及しました。共同通信が熱心にフォロー。多くの地方紙が報道してくれました▼カナダの「ブルーリボンバッジ運動」を日本でも広めようと、氏が中心となって取り組んできましたが、朝日新聞「関西版」が5月31日家庭欄で紹介、大ブレイクです。1日中電話が鳴りっぱなし。さらに、6月4日には「東京本社版」も掲載。すでにバッジの在庫はゼロとなってしまう、言い訳に大わらわです。本紙の編集作業と、ブルーリボンが重なって、大変な事態となりました▼煙害で勤務先を3月でやめた。さんに助けを求めました。いや〜あ、本当に助かりました。とにかくこの1週間、電話・FAX がとぎれることがありませんでした。(文)